

5Vケーブル

12Vケーブル

写真4：付属5V・12V出力ケーブル

5Vケーブルはポリスビデオ700HC/1000HC、モバイルエージェント95、WCH-100XP/200X、SCH-60などに対応します。

各端子は最大1Aまで対応します。ケーブルについているタグには「250mA」の表記が付いていますが、1A=1000mAまでOKです。

表1が使用可能時間のデータです。SVR-41Nは5V250mA、ポリスビデオ1000HCが5V800mAです。単体CCDカメラKPC-S20CPが12V120mA、KS-778Aが12V120mA、LED内蔵カメラAP-606IRHがLEDオンで

12V200mA、LEDオフで130mAの消費電流となっています。テスト時AP-606IRHは点灯時間と消灯時間がほぼ同じです。アルカリ電池は三菱製でテストを行っています。

これらのデータからすると、アルカリ電池48本の場合で5V31Ah(=1A×31h)(=155Wh)、12V15Ah(=0.12A×128h)(=180Wh)、エネルギー電池48本の場合で5V25Ah(=1A×25h)(=125Wh)、12V12Ah(=0.12A×102h)(=144Wh)の電力量があることとなります。各数字にすいぶん差がありますが、これは各接続機器の動作下限電圧の違い、消費電流の違いが原因と思われるです。

1台では電池寿命が足りないケースを考え、2台接続用と4台まで接続可能なケーブルを用意しています。DualVoltage48取扱店で入手できます。

- MC-2J(¥980)…12V用
- MC-2Jトク1.3mm(¥1,500)
- MC-4J(¥2,480)…12V用
- MC-4Jトク1.3mm(¥3,000)

MC-2J、MC-4Jは両端にφ2.1mmのオスメソコネクタが付いた12V用です。

MC-2Jトク1.3mm、MC-4Jトク1.3mmはそれに1.3mm用変換コネクタを必要個数付属させたものです。このトク1.3mmのケーブルは、変換コネクタを付けると5V用、外せば12V用です(写真5)。

これらのケーブルを経由させて、複数台のDualVoltage48を該当機器に並列接続することで2倍～4倍の動作時間が得られます。

写真5：MC-2JとMC-4J



φ2.1mmとφ1.3mmの変換コネクタ

MC-2J

MC-4J

#### DualVoltage48 スペック

- 外寸/181(184)×263(274)×36mm(本体)・1m(5Vケーブル)・1m(12Vケーブル)
- 重量/786g(本体のみ電池含まず)・21g(5Vケーブル)・23g(12Vケーブル)・参考重量1.9kg(単3アルカリ電池48本装着時)・参考重量2.05kg(単3エネルギー電池48本装着時)●対応電池/単3形電池×最大48本(8・16・24・32本でも使用可能)●出力/12Vφ2.1mmセンタープラス×3・5Vφ1.3mmセンタープラス×3・同時出力も可●製品構成/本体・12V出力ケーブル×3・5V出力ケーブル×3



# 単3電池48本 12V/5V電源

# DualVoltage デュアルボルテージ 48

製品に電池は含まれません。別途お買い求めください。  
090302A

DualVoltage48は単3電池を使用した直流5V・12Vが取り出し可能なポータブル電源です。ほぼB5サイズですので、バッグなどにも収納しやすいでしょう。単3電池はフルで48本を使用しますが、最小、単3電池×8本でも動作可能です。また電池のセットを間違えた場合の危険性も72V(=1.5V×48本)ではなく、12V程度(=1.5V×8本)です。

1.5Vのアルカリ電池、マンガン電池などの一次電池、充電可能な1.2Vのニッケル水素(NiMH)電池などの二次電池のいずれも使用可能です。

現実的な選択としてはアルカリ電池を第一に、第二がニッケル水素電池の最新型"エネルギー"ということになるでしょう。エネルギーはSANYO製ですが、Panasonicからも同様の電池が出ており、エネルギーを文字ってパナループ(メーカー呼称ではない)と呼ばれています。

## 電池のセット

DualVoltage48はフタを外して、電池ボックス部を露出させます。フタは後部のローレットネ

写真2：フタは3か所で固定

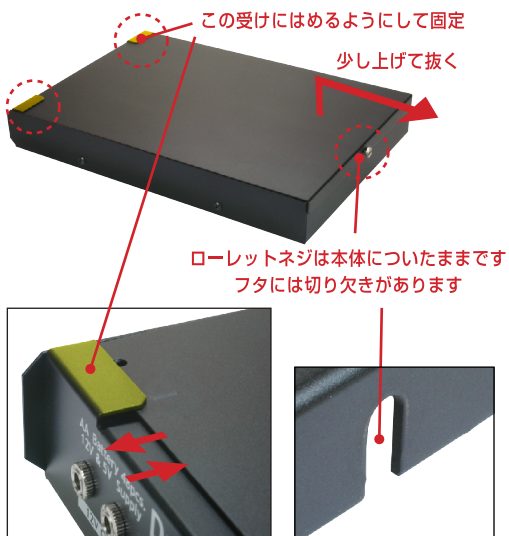


写真1：8本電池パック×6=48本

ジ1ヶおよびフロントパネル側の2か所のはめこみで固定されています。

ローレットネジは紛失防止のため、ゆるめても本体につながったままです。ローレットネジがはずれないのが正常です。

**ローレットネジをゆるめたら、フタのネジ穴の切り欠きを確認して、フタ後部を少し持ち上げて、ローレットネジから外します。次いでフタ全体を後ろにずらして外します(写真2参照)。**

電池をボックスのプラスマイナスの指示通りに装着します。1本でもプラスマイナスを間違えると動作しません。

電池は48本全部でなくても、6個ある8本電池パックのうち、最低限どれかひとつに8本を入れれば動作します(動作時間は当然短いです)。各電池パックひとつずつが動作の基本単位になっており、8本、16本、24本、32本でも動作するということです。



写真3：フロントパネル

12V出力端子×3 (φ3.5mmミニジャック) 5V出力端子×3 (φ2.5mmミニミニジャック) 電池チェックボタン (押したときのみ下LEDが点灯) 電源スイッチ

各電池パックが基本単位になっているからと言って、電池パックごとに違う種類の電池を混ぜることはおすすめしません。またアルカリ電池とニッケル水素電池を併用することもやめてください。また残量が少ない電池が含まれていると、他の電池からその電池に向けて、電気が補充されることになり、全体として能力がいちじるしく落ちます。

使用済みの電池をセットしたまま長く放置すると液漏れの可能性があります。なお、電池の液漏れによる不具合は保証期間内でも、誤った使用による故障とみなされて有償修理となります。

## 使用可能時間など

DualVoltage48のフロントパネルには電池の残量チェックのための3点LEDがあります。このLEDは電源スイッチをオン側にし、上のチェックボタンを押したときのみ、LEDが点灯します。

このLEDの機能はいわゆる電池チェッカーと同じで、電圧を示しています。電池の消耗に応じて点

灯数が減ります。3つ点灯する場合は10.5V、2つが9V、1つが5Vの設定になっています。

新品アルカリ電池(初期電圧1.6V~1.65Vです)の場合は3つ点灯しますが、エネルギーでは、ごく初期に3つ点灯し、使い始めると、すぐに2つ点灯になります。エネルギーは公称電圧が1.2Vですが、ごく初期電圧のみ1.45Vの電圧があるためです。一般のニッケル水素電池はここまで電圧が高くはありません。

接続する機器によりいちがいにいえませんが12V機器には2つ点灯がほぼ必須でしょう。

DualVoltage48は8本パックを基本単位とする関係で、エネルギーなどの1.2V電池をセットし、12V機器に使用すると期待していたほどの電池寿命が得られない傾向があります。セットする電池が少ないほどこの傾向は顕著に出ます。

端子がφ1.3mmセンタープラスの5V出力ケーブル3本、φ2.1mmセンタープラスの12V出力ケーブルが3本付属します(写真4)。

表1：DualVoltage48の使用可能時間(アルカリ電池はMITSUBISHIでテスト)

| 使用可能時間  | 出力           | 電池          | 接続する機器                | 消費電流(12V/5V)             |
|---------|--------------|-------------|-----------------------|--------------------------|
| 31時間    | 5V×1         | アルカリ単3×48本  | 1000HC+SVR-41N        | 約1A(5V)                  |
| 25時間    | 5V×1         | エネルギー単3×48本 | 1000HC+SVR-41N        | 約1A(5V)                  |
| 128時間以上 | 12V×1        | アルカリ単3×48本  | KPC-S20CP(12V)のみ      | 120mA(12V)               |
| 102時間   | 12V×1        | エネルギー単3×48本 | KPC-S20CP(12V)のみ      | 120mA(12V)               |
| 24時間    | 12V×1 & 5V×1 | アルカリ単3×48本  | AP-606IRH(12V)と1000HC | 130~200mA(12V)/800mA(5V) |
| 25時間    | 12V×1 & 5V×1 | エネルギー単3×48本 | AP-606IRH(12V)と1000HC | 130~200mA(12V)/800mA(5V) |
| 25時間    | 12V×1 & 5V×1 | エネルギー単3×48本 | KS-778A(12V)と1000HC   | 120mA(12V)/800mA(5V)     |